

■ コンクリート工学会年次大会における北海道港湾のコンクリート技術紹介

寒地港湾技術研究センター

7月10日から12日の3日間、コンクリート工学会年次大会が札幌コンベンションセンターにおいて開催されました。

本大会は来場者が10,000名を超えるコンクリート工学に関する全国大会であり、論文発表、新技術の紹介、最近のタイムリーなテーマに関する講演会、セミナー、フォトコンテスト及び見学会等、多岐にわたる行事が行われました。

この中で当センターは新技術等を紹介する「コンクリートテクノプラザ2019」（来場者数約5,750名）において北海道港湾におけるコンクリート技術を紹介しました。

内容は北海道黎明期におけるコンクリート技術として、コスト縮減及び耐久性向上を目的にコンクリートに国内初となる火山灰を採用した小樽港防波堤工事、最近の技術として、メンテナンスフリーを目的に釧路

港バルク岸壁上部工で採用した炭素繊維複合材の紹介です。

小樽港防波堤工事については小樽港が見学会メニューに含まれていることもあり、大学関係者、セメントメーカーの関心が高く、また、海外からの参加者も展示したモルタルブリケット、防波堤工事施工写真を撮影し、とても興味を持っているようでした。

また、釧路港で採用した炭素繊維複合材はサンプルを展示したところ、見学者が自らサンプルを曲げ、引張して一般的な棒鋼に比べ、非常に軽量であることを体感していました。

今回の展示には北海道開発局 小樽及び釧路港湾事務所からモルタルブリケット、試験台帳及びパネル等、貴重な所蔵品及び資料を提供いただきました。紙面を借りてお礼申し上げます。



釧路港における炭素繊維複合材の紹介



展示ブース



小樽港防波堤工事に関する展示